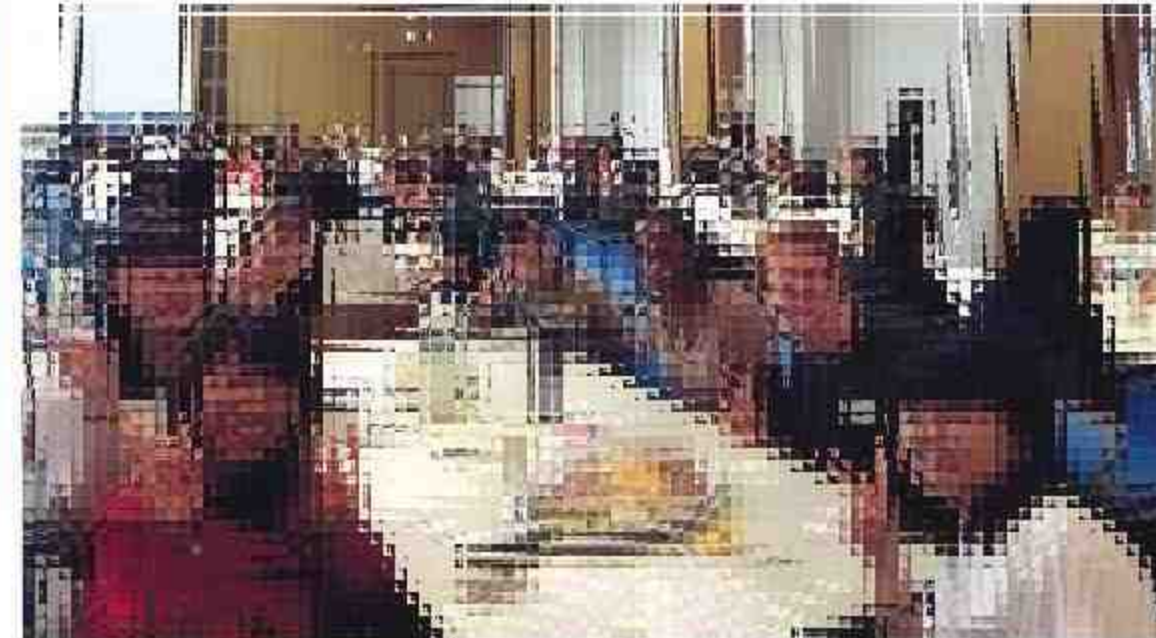


第2回 南フロリダ大学学生31名との国際交流

令和元年5月21日（火）から23日（木）の3日間にかけて、昨年に引き続き、米国の南フロリダ大学より学生31名、教員4名が岐阜大学を訪問しました。南フロリダ大学は、学生数48,000人の全米最大規模を誇る州立大学の一つであり、平成28年10月には、本学医学部及び保健管理センターと南フロリダ大学医学学群との間に部局間協定が締結されています。

看護学科では医学部記念会館にてウェルカムランチパーティを開催し、学生83名、教員25名の他、鈴木国際担当理事、吉田岐阜大学医学部附属病院長、山本保健管理センター長など、総勢149名が参加し、南フロリダ学生・教員との交流を深めました。その後、南フロリダ学生は看護学科3年生の講義「医療英語Ⅰ」に参加し、看護師－患者間の医療面接ロールプレイに模擬患者役として加わってくれました。

また、2年目の開催となる今年は、看護学科教員による「高齢者体験講座」や、看護学生による「英語で巡る看護学科ツアー」等も実施され、好評を博しました。その後、南フロリダ大学一行は、郡上市立八幡小学校を訪問し、児童との給食、配膳、清掃、郡上踊り等を通して、米国とは異なる日本の教育システムを体験し、再来訪を約束して帰国の途に就きました。



看護学科学生のアンケートより

- 最初は不安だったけど、お互いに理解しようと努力すれば何とかできることが分かって、すごく楽しい時間となった。
- 学校や部活、行きたい国のことなど多くの話ができ、その後もSNSで交流して、お互い素敵な医療者になろうね！とエールを送りあった。なかなかない貴重な経験で楽しかった。ぜひまた参加したいと思った。
- 同年代の外国の人たちと話すことがほぼ初めてだったので楽しかった。
- 自分の英語が伝わったときは、すごく嬉しかった。
- 友達がたくさんできて、もっと英語を学びたいと思った。来年も参加したい。
- 同年代の、しかも同じ医療を学んでいる人と交流できるいい機会になってよかった。
- 日本と違う海外の文化を肌で感じる事ができたので、新鮮だった。
- 今でもSNSでつながっていて、英語でメッセージを送るという経験は今までなかったことなので、とても楽しい。



高齢者体験

- 医療面接ロールプレイでは、外国人を相手に実践的な問診ができて、とてもいい経験になった。
- 「医療英語」の授業で学んだことを生かすことができたので楽しかったし、学びが深まった。
- 1人目の時に伝わらなかった単語が、少しずつ2人目、3人目になるにつれて、一回で通じるようになってとても感動した。
- 外国人患者側の気持ちも分かったので、とてもよかった。
- 実際に外国人患者さんに英語で問診票を書くイメージがわいた。
- 英語が通じて少し自信がついた。アドリブも交えることができた。
- 相手に伝わったときは、とても達成感があった。
- 楽しかったし、文化の違いを感じることは看護学生にとって有難い経験だった。

